

土砂運搬時の安全管理について

長崎県土木施工管理技士会

株式会社 下田組

現場代理人

城谷新吉

1. はじめに

工事概要

工事名 : 長崎497号竹辺地区改良工事

発注者 : 国土交通省九州地方整備局
長崎河川国道事務所

工事場所 : 長崎県佐世保市竹辺町地先

工期 : 平成18年3月18日～
平成19年3月31日

工事内容 : 5-3 工区・5-5 工区

掘削工 (土砂)	: 20,700m ³
掘削工 (軟岩)	: 38,000m ³
掘削工 (中硬岩)	: 11,620m ³
残土処理運搬	: 70,000m ³
路体盛土工	: 26,600m ³
擁壁工 (補強土壁工)	: 474m ³ 、3,356m ³
排水構造物工 : 一式	函渠工 : 一式
法面工 (植生工)	
種子吹付け	: 3,110m ²
張芝	: 1,310m ²



写真-1 完成写真

2. 工事の説明・問題点

本工事は、西九州自動車道に伴う工事であり、今回施工した場所は佐世保道路（佐世保IC-長崎河川国道事務所中里IC）L=5.0kmの一部（0.6km）の改良工事で土工事（暫定）が主体となっている現場である。

その中で一番苦痛となったのが残土搬出であるため、運搬路の計画と運搬に対する安全管理について検討することになった。



写真-2 完成写真

3. 現場付近の問題点

1. 工事車両が通れる道路がない
2. 現場出入口の近くに市道、私道が横断している（小・中学校の通学路でもある）。
3. 近隣に民家、施設が有ること。

4. 対策

1. 工事用道路を施工し工事車両が余裕をもって走行できるよう AS 舗装を施工し、また工事車両出入口を拡幅し安全確保に努めた。
2. 各道路の横断箇所については地元自治会の要望と第三者との接触事故防止の為に交通誘導員を配置する事にした。



写真-3 完成写真



写真-4 交通誘導員（私道）

3. 工事用道路の両端に防護壁を設置し民家への粉塵等が飛散しないよう工夫しました。
また、適時の散水や清掃を行い環境美化にも配慮した。結果、付近住民の方からの苦情などなかった。



写真-5 防護壁の設置状況



写真-6 誘導員による安全ミーティング

土砂運搬による対策

1. いまでも問題になっている過積載について当現場では当たり前のことであるが、必ず朝礼と班毎のミーティングを行い、特に重機 OP に過積載にならない・しないと呼び掛けている。
また、実際に積載の確認の教育訓練を実施している。



写真-7 現場での積載確認



写真-8 自重計確認



写真-9 車両重量計での測定

5. おわりに

最初この現場を任せられた時、どうやったらこの現場をやりとげる事が出来るか心配したが、周りの人から色々教えてもらい無事事故なく終える事ができた。これをいい経験として次ぎにつなげていきたい。

今回はじめての大型土工事を施工してみて現場内の安全管理だけでなく、その周辺の管理対策が非常に重要・大切かが分りました。自分だけの安全ではなく職場全員のための安全だと思います。